

青森林業土木協会の「施工技術・安全管理指導者研修会」に参加

林土連では7月の「全国安全週間」行事として、全国の林業土木協会と連携し、安全パトロールなどの取り組みをしています。

令和元年度は、青森協会の協力をいただき、7月17日に青森市で開催された「施工技術及び安全管理指導者研修会」に林土連菊池専務理事が参加しました。

当日は、青森県内の会員会社から35名の安全管理指導者が参加し、講師、主催者を含めると47名が参加しての研修会となりました。

午前中は青森森林管理署が発注し、会員の相内建設株式会社（相内喜久男代表取締役）が受注した「戸門地区治山工事」の現場において安全点検を行い、午後は協会会議室で点検結果の取りまとめ、発表などの室内研修を行いました。

講師は、東北森林管理局森林整備部安全担当の安食義弘企画官と、治山課の三ヶ田重樹設計指導官、青森森林管理署の高井秀章署長、外崎嗣久総括治山技術官、新谷浩誠治山技術官にお願いし、指導をいただきました。



森林管理局・署の講師の皆さん



挨拶する菊池専務理事(右は田中会長)

研修会冒頭、青森協会の田中 進会長から、開催趣旨と安全管理指導者として災害を出さない努力をお願いしたいとの挨拶がありました。続いて高井青森森林管理署長からは、国有林の請負事業の現場では依然として重大災害の発生が続いており、林業土木の現場でもリスク管理を行い、注意して仕事をして欲しいとの要請と、特に今年はこれまでなかった請負の現場での熊による人的災害が発生しており注意して欲しいとの要請がありました。

林土連の菊池専務からは、3年間全国の会員は重大災害発生ゼロを継続してお

り、各協会の安全管理への取り組みと、安全管理指導者の皆さんの現場での努力に感謝申しあげるとの御礼と、林土連会員の重大災害では「墜落、転落」、「土砂・岩盤の崩落」、「重機の転落」、「支障木伐倒」によるものが多く、安全管理指導者は特に留意して欲しいとの要請を行いました。

安全点検は、今年の3月に受注し現在3割くらい事業が進行中の鋼製護岸工事と、鋼製枠谷止工事の現場で行われました。工事現場は火山灰が厚く積もった土質で、急傾斜の箇所もあり作業箇所まではトラック等はず入れず、重機の自走路を設置しての工事となっていました。安全点検は、「安全管理体制の確立」、「墜落・転落災害防止」、「車両系建設機械災害の防止」、「土砂崩壊災害の防止」の4つの視点からそれぞれ班に分かれて点検を行いました。



鋼製枠谷止施工箇所での安全点検



安全点検を踏まえて開催された室内研修

午後の室内研修では、4班ごとに安全点検の取りまとめを行った後に点検結果の発表を行い、気になった点の指摘や、推奨事項などを出し合い、全員で意見交換を行いました。

講師からは、各自毎日血圧測定をしているが本人だけがわかっているだけなので、記録をしておけば毎日の体調の変化が確認でき、安全管理指導者も確認できるといったアドバイスや、運搬路が急なので重機の運転は細心の注意が必要といった指導をいただきました。また鋼製枠内で詰め石をする作業が本格化しており、低い姿勢で重い石を面を揃えて並べたり、石を均したりする作業が主な内容で、腰痛、指を挟む、足に石を落とすといった特有の災害発生リスクがあるのでこれらへの対策や、熱中症への対策も必要との指導をいただきました。

その後、安全担当の安食企画官から「請負事業体等の労働災害発生状況」と題し、最近の災害発生事例を元に、重機の転落事故や支障木処理での事故、高所からの転落事故などについて、注意すべき点などの指導をいただきました。また、

三ヶ田治山課設計指導官からは「治山・林道事業実行上の留意事項」と題し、6月に発生した「山形県沖地震」での防災ボランティア活動への御礼と、国有林では被害が特に確認されなかったとの報告をいただき、更に6月12日に実施された円滑な事業実施に向けた協会と局の「意見交換会」などを踏まえた今後の森林管理局の取り組みなどについて説明いただきました。

今回、青森協会の安全管理指導者の研修会に参加させていただきましたが、参加者が真剣に、緊張感をもって研修に参加していたことが印象的でした。事業が本格化する中で、一歩間違ったら重大災害に直結する災害や、ヒヤリとする事例も出ています。天候、作業場所、作業内容等により災害発生のリスクは変化します。リスクを作業仲間全員で共有し、先取りの安全活動を会員の皆様をお願いします。

なお、林土連では8月には長野協会の協力をいただき、合同で安全パトロールを計画しています。